



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R03/04
26号

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

徳島市民病院救急室のご紹介と救急室長就任のご挨拶

救急室長 宮本 理司



脳神経外科医として28年、うち市民病院では計18年程が経過しました。この度、令和3年4月1日付で救急室長を命ぜられました宮本理司と申します。救急室の充実と皆様からのさらなる信頼を得ることができますよう、微力を尽くす所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

さて、徳島市民病院では基本方針の一つとして、救急医療を含めた急性期医療と、高度で専門性の高い医療の提供を掲げています。当院は2次救急指定病院であり、複数の救急医が在籍している状態ではありません。日勤帯は医師1名が各診療科バックアップのもとに対応し、夜間休日は内科系医師、外科系医師、産婦人科医師の3名体制で年間約2500台の救急搬送及び、約8000人前後の救急患者さんを受け入れています。

しかしながら現状として、夜間休日に救急対応不能例が20%程度あることも事実です。年次推移で減少傾向にはありますが、スタッフ数その他の問題点を少しずつ改善している状況で、受け入れにはしっかり対応していると考えております。今後も救急医療に対する体制を整えた上で、かかりつけ医の先生との連携をより強化し、安全な救急医療を提供していきます。

令和3年4月現在、日本をはじめ徳島県でも新型コロナウイルス感染の拡大がみられています。当院は感染指定病院ではありませんが、重点医療機関及び協力医療機関に指定されています。これまでに感染制御室が中心となって救急スタッフへの教育をはじめ、マスク、防護服等物資の確保や検査体制の拡充を行ってきました。さらに発熱

患者さん待機用の簡易待合室や診察室を設置し、感染が疑われる患者さんが移動する動線分離を行った上で、様々なケースを想定したシミュレーションとマニュアルも作成しました。その上で職員一人一人の体調管理と感染予防対策により、現在までは院内感染の発症を防ぐことができています。しかし、救急室では以前に比べPPEを着用しての検査や診療などに時間を要し、患者さんはもちろんスタッフにも大きなストレスがかかる日常が続いています。今後、ワクチン接種の普及が感染収束につながることを切に期待しています。

最後になりますが、救急医としてのキャリアがまったくない私に今後の円滑な運営ができるのか甚だ疑問に感じている方も多いと思われれます。おそらく一番強く感じているのが自分自身です。加えて、最前線での新型コロナウイルス対応という重積を担うこととなります。全力を尽くしてがんばりますので、現場のスタッフはじめ関係者の皆様には、これからの救急室の更なる発展と、安心できる救急医療の提供のため、改善点等ございましたらぜひともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。今後とも救急室運営へのご理解、ご協力を頂ければ幸いです。(令和3年4月1日 徳島市民病院救急室長 宮本 理司)



救急用入口(左)、発熱患者さん専用の待合室(中)と診察室(右)

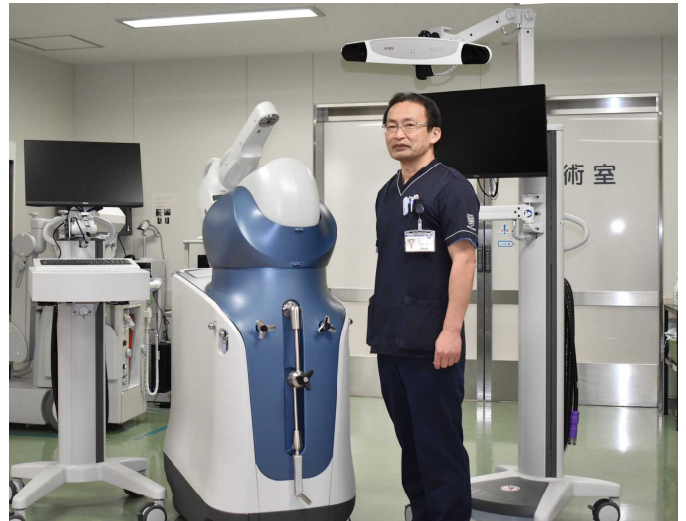
人工股関節手術にロボットアーム手術支援システムを導入

当院関節治療センターでは、股関節・膝関節の人工関節置換術の手術症例数が年間500症例を超えており、そのなかで人工股関節置換術は250症例程度です。人工股関節手術において、術前の計画どおりに人工関節インプラントを設置することが一番理想的であり、良好な臨床成績に繋がります。

平成26年4月から導入使用しているナビゲーションシステムは、術前CT検査の情報をコンピューターに取り込み、手術計画を立て、手術中モニターを見ながら正確に掘削、人工関節インプラントの設置を行います。比較的正確な手術が可能となりましたが、それでも術中の操作は術者の手作業であるため、僅かなぶれは生じます。

そこでこの度、ロボットアーム手術支援システムを四国で初めて導入しました。3次元CTデータを基にコンピューター上で手術計画を立てるのはこれまでと同じですが、コンピューター制御されたロボットアームの補助により、手術操作をより安全・正確に行うことのできるシステムです。このロボットアームを用いることで1ミリ、もしくは1度のぶれもなく、計画どおりに骨盤骨の適切な位置を球状に掘削できます。削り過ぎや削り足りないことがなく、周囲の組織を傷つけないので非常に安全です。

さらに、金属カップインプラントをロボットアームで



中野副院長 兼 整形外科総括部長とロボットアーム

掘削部位へ正確に叩き込み設置でき、より精度の高い手術が可能となります。人工股関節手術が術前計画通りにできれば、術後疼痛の低減や早期リハビリの開始に繋がり、長期にわたり良好な成績が期待できます。人工股関節の大きな問題の一つである脱臼の心配もほとんどありません。

令和3年4月からロボットアームによる手術を開始し、週3~4症例を施行しております。期待どおり精度の高い手術により、患者さんにとっても、医療側にも大きなメリットを獲得できています。

(副院長 兼 整形外科総括部長 中野 俊次)

骨密度検査機器を更新

放射線科では、3月13日に全身用X線骨密度測定装置を設置し、16日より運用することとなりました。

当院の骨密度測定は長らく超音波を使用したものとなっていたのですが、このたび導入した装置は微弱な放射



更新完了した骨密度検査機器

線を使用します。腰椎と大腿骨をスキャンして骨密度を測定するもので、以前よりさらに正確なデータを提供できるようになりました。

腰椎及び大腿骨の一括ポジショニングと測定、一括自動解析が可能となるOne Scan機能などを備えています。撮影時間は腰椎正面・大腿骨共に約30秒、被ばく線量は0.037mGy (カタログデータより) とのことで、検査時間短縮と患者さんの負担軽減に繋がります。

また、全身骨密度と体組成 (脂肪量・非脂肪量・骨量) 及び人工股関節置換術 (THA) 後のステム周辺の骨密度を測定する事も可能となりました。そのため、骨粗鬆症・リウマチ・THA後の患者さんの定期的な検査の一つになると考えられます。

(放射線科 松本 弘樹)

当院でも阿波あいネット 4月より稼働

令和3年4月より、阿波あいネットと当院の電子カルテシステムとの間で、双方向の連携が開始されました。阿波あいネットとは、徳島県内の医療機関や介護施設が協力して、薬剤情報や検査結果等の診療情報をコンピュータネットワークで共有し、患者さんへよりよい治療やケアを提供するために活用する仕組みです。

現在は徳島大学病院、県立中央病院、徳島赤十字病院などの中核病院や診療所などの双方向連携施設の診療情報を、参加している98施設が参照できます。当院ではシステム上の問題から、他の医療機関より運用開始が非常に遅れておりましたが、やっと運用環境が整備されました。病院や連携医療施設間で共有できる情報は、疾患名、アレルギーに関して、入退院情報、検査結果、処方・注射に関するデータで、現時点では医師のみ閲覧可能です。今すぐにはありませんが、将来的にはCTやMRI等の画像所見も共有され、当院で撮影された画像が診療所などから参照できるようになりますし、当院からも他院で撮影された画像を参照することが可能になってきます。

共有される診療情報や画像所見は、阿波あいネットへの参加に同意した患者さんのデータに限られる上、その方がこれまで受診したことのある病院・診療所でなければ情報の閲覧はできません。

阿波あいネット全体で、同意を得て登録を行った患者数は現時点では県下で約26,000名です。当院では稼働開始時期が遅れた上、新型コロナウイルス感染の影響で同システムへの参加登録活動が制限されました。登録患者さんがまだまだ少なく、今後登録数を増やしていくことが、このネットワークをより有効に活用していく上で非常に重要と思われます。日常診療時に情報を共有するだけでなく、将来高い確率で生じると言われている南海トラフ地震などの災害発災時に、複数の医療施設で患者情報を共有し、患者さんが診療を受けていた医療施設が被災しても、他の医療施設で診療を継続することが可能となります。東北大震災の経験から複数の医療機関で情報を共有することの重要性は明らかであります。

阿波あいネットのスローガンは「つなげようみんなのカルテ」です。当院としましても、今後、このネットワークを有効に利用し、患者さんを中心とした徳島の医療に貢献していければと思っています。(院長 三宅 秀則)



特定行為研修の修了と実践

特定看護師は、医師の業務のタスクシェアとしての役割が注目されがちですが、研修により高度かつ専門的な知識と技術を身につけた、今後の医療を支える看護師として活躍の場を広げようとしています。



修了証を手にした藪原特定看護師

約240時間に及びe-learningを受講後、15日間の演習では徳島大学病院医師より臨床推論やフィジカルアセスメント、身体診察法などの直接指導を受けました。その後、当院各科医師の指導の下に実習を行い、6区分15の特定

行為を取得することができました。

実習中は医師、看護師、薬剤師、臨床工学士、栄養士など多職種の方に協力していただき、心から感謝申し上げます。また、担当患者さんからも励ましの言葉をいただきました。

特定看護師は、全国的にも医療現場に浸透している状況ではありません。また、働き方も施設によって違います。麻酔科医師と共に手術麻酔管理を実践しながら、まずは私自身のスキルアップを目指したいと思います。そして、手術室・病棟看護師、多職種と情報や知識を共有し視野を広げると共に、医療知識と看護の統合ができる看護師を目指していきたいと思っています。(特定看護師 藪原 由紀子)

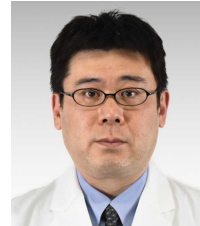
新任医師、臨床研修医ご紹介

徳島市病院局は4月1日付で人事異動を発令しました。当院は医師11名を採用。臨床研修医2名を含め、医師13名が着任しました。

また、がんセンター副センター長に橋本 年弘内科診療部長、救急室長に宮本 理司脳神経外科診療部長が就任、竹内 恭子内科主任医長は診療部長に昇格です。



内科主任医長
手塚 敏史
【専門分野】呼吸器内科



外科主任医長
岩橋 衆一
消化器外科、一般外科



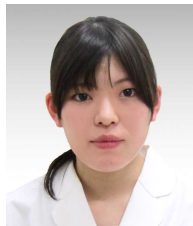
産婦人科主任医長
山崎 幹雄
産科婦人科



小児科医長
武井 美貴子
小児科一般



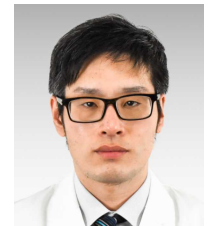
内科医員
佐々木 沙紀
消化器内科



外科医員
竹原 恵美
一般外科



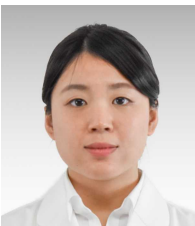
整形外科医員
杉峯 優人
整形外科一般



麻酔科医員
弘田 健太郎
麻酔科



耳鼻咽喉科専攻医
藤野 勝也
耳鼻咽喉科、頭頸部外科



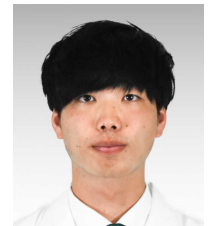
麻酔科専攻医
近藤 早紀
麻酔科



産婦人科専攻医
篠原文香
産科婦人科



臨床研修医 (2年次)
高橋 啓輝



臨床研修医 (1年次)
岡本 将裕

研修医日記

臨床研修医2年次 **吉田 真理子**

研修医2年目の吉田真理子と申します。徳島大学病院の研修プログラムで1月から6月までの半年間、整形外科、産婦人科、小児科、外科、呼吸器内科で研修させていただきます。

出身は高知県で、徳島大学卒業です。学生の頃の市民病院での実習が楽しく、この病院で研修させていただこうと決めました。アットホームな雰囲気、どなたにも話しかけやすいのがこの



病院の魅力だと思いました。

1月から研修を開始し早くも3カ月が経ちました。勤務し始めた頃は右も左もわからず、戸惑うことも多かったのですが、先生方やコメディカルの皆さんに助けられながら、少しずつこの病院に馴染んでいってるなと感じています。

手術では、今までメスすら握ったことがなかったのですが、色々な手技を経験させていただき、大変勉強になりました。これからもチャンスがあれば逃さず、積極的に取り組んでいこうと思います。2年目になり後輩もでき、お手本となるような仕事をしていきたいです。

また、あと1年で自分も後期研修が始まると思うと身の引き締まる思いです。まだまだ未熟で悩むことも多いのですが、1日1日を大切に自身の学びにつなげていきたいと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。